大賞　ももたんさん（福岡県　小学 3 年）

未来へ～アレカラとコレカラの話～

2021 年、小学三年生の夏休みがきっかけだった。私は脱炭素社会について問題を考え、生ごみを家庭でしょ理できるコンポスト活動に取り組んだ。コンポストとは、び生物の力を借りて生ごみを土にもどす日本古来から伝わる方法だ。び生物は目に見えないほどの小さな生物で、生ごみを食べて分かいすることにより力を発きする。この研究で、私は、みごと「未来賞」を受賞した。び生物の力のすばらしさを知った私は、そこからさらに研究をみがいていったのだ。

2045 年、現代の暮らしを想像してほしい。私が子どもだったころは、車が宙をまい、、つつ状の道路を飛んでいく様をよく想像したものだが、実は全くちがう。人々は便利さや近代化を目指すのではなく、再び、様々な生き物や自然と共存するための社会作りに努力をおしまなかった。

熱をたくわえて熱くなるアスファルトをなくし、草木の生える道にあえて作り変えた。以前、車と呼ばれていた乗り物もすがたを変え、今では宇宙船のような見た目で空を飛んでい動する。動力はもちろん、私が研究して生み出した「び生物のエネルギー」である。

人間活動によって排出されたゴミをしょ理場へ運び、私が開発実現したゲノムコンポスターへ入れる。スーパーび生物が、それらを食べてエネルギーに変えて、これを次世代のエネルギーとして使用している。生物の力が主な原動力なので、環境はかいの問題もない。もちろん、人体へのえいきょうもない。

スーパーび生物を作り出すのに苦労した分、得るものも大きかった。失敗をくり返すことで未知のウィルスをも分かい出来るび生物を、ぐうぜんだが発見することが出来たからだ。

病気で苦しむ人たちに投与し、体の中で悪いウィルスやガン細胞までも分かい出来てしまう特しゅな種類のものだ。今はさらに開発が進み、細ぼうを作り出すことも可能となった。つまり、事故やけがで失ってしまった手足や、病気ややけどでいしょくが必要なぞう器や皮ふも、自己再生できるのだ。我ながら、なんとすばらしい研究成果だろう！

さらに私は、世界の水事情や、食りょうなんの問題にも取り組んだ。水くみで学校に通えない子ども達がいること、国が困きゅうして食べられない子ども達の存在を知ったからだ。幸い、び生物アルファに水じょう化作用があること。ベータに草花を育てる活性化作用があることを発見できた。研究結果が実さいに効果を発きし人々を救った時、私達研究チームは飛び上がってよろこんだ。まるで、昨日のことのようになつかしい思い出だ。

オメガ、アルファ、ベータ、、、私はこのスーパーび生物達に、あえてそう名前を付けた。この名前で不快を感じる人もいるだろう。なぜなら、かつてたくさんの人々を死においやり苦しめた未知のウィルスを分類した名前と同じだからだ。しかし、私達はこの苦しみから学んだことも多かったはずだ。国をこえ、人種をこえて、多くの研究者が力を合わせてふんとうした。だからこそ、一ち団結して研究をすすめることが出来たのだから。

「生き物や自然を大切にして、困っている人がいれば迷わずに助けなさい。」

そう言った母の言葉を思い出す。この教えがあったからこそ、私はここまでがんばってこられた。私も母に助けられていたのだ。

33 歳になった私は、食べられない子ども達の支えんをする「幸せのパン屋」活動をしている。子どものころからの目標だった「パン屋になる」という夢もかなえたのだ。

毎日おいしいパンをやきながら、今日も私はねがいをこめる。

「誰もが行きたいところに行ける自由と、やりたいことにチャレンジできる未来が、これからも、ずっと続きますように。」